

大分先端画像診断センターが導入した新しいPET/CT。「地域共同利用を進めたい」と話す友成健一朗センター長



### 大分先端画像診断センター

PET/CTは、特殊な影装置と、がんの形や大薬剤を注射してがんの活動きさ、臓器のどの部分に病変があるのかなどの画像を得られるPET(陽電子放射断層撮得られるCT(コンピュータ断層撮得られる)の機能が一体となった装置。両方ターは10年度、保険適用での画像を融合させることで、より明確な診断ができる。同センターは2004年に県内で初めて導入した。新しい装置は、従来の装置より解像度が高く、撮影時間も約20分に短縮する。CTも4スライスから40スライスとより薄い画像を得ることができるようになった。大分大学病院が導入したい」と話している。

がんを早期発見するための最先端の医療検査機器「PET/CT」を県内の民間医療機関で唯一、導入している別府市上八ヶ浜町の「大分先端画像診断センター」は、より高精度な画像診断ができるPET/CTを新たに導入し、9月から運用を始めた。

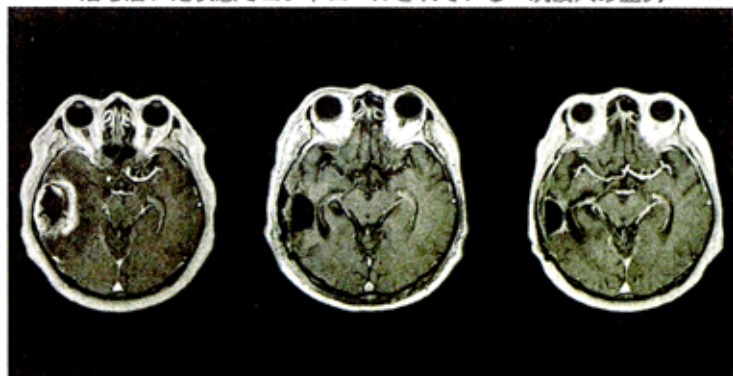
### 今月から運用 PET/CT より高精度な画像

# がん

## 脳腫瘍のワクチン治療 早期発見へ最新鋭機器

たPET/CTと同じ能力。PET/CTによるがん検査は全額自己負担(12万円程度)となるが、10年から早期のがんを除くすべての悪性腫瘍のPET/CT検査に健康保険が適用さ

術前の画像。白い円形が腫瘍本体。周りに腫瘍が散らばっていると考えられる術後の画像。腫瘍本体をくり抜いて取ることができた④放射線+抗がん剤+ワクチン療法を施行して18カ月の無再発の画像。腫瘍は増大が見られず、落ち着いた状態でコントロールされている=筑波大の症例



### 大分大脳神経外科

## 手術後自家組織を加工 西日本で初の治験

を作製する。ワクチンをその結果では1年生存率50%、2年生存率20%。抗がん剤で治療していると、ワクチンは体の免疫とされる腫瘍に少し細胞を活性化させ、がんしずつ良い成績が得られ細胞中の特殊な目印をきており、うまくいっり免疫細胞は、がん細

大分大学病院脳神経外科が10月から「脳腫瘍の自家がんワクチン治療」の治験を開始する。より高い治療効果が期待される。

胞だけを攻撃するようになる。手術で腫瘍を摘出、放線治療、抗がん剤(テ)の治験開始を予定している。そのしたワクチン治療の治験に西日本で唯一、大分大が加わった。10月

悪性脳腫瘍の中でも最悪とされる膠芽腫の初発患者を対象とする治療。モーター)投与を行い、患者を対象とする治療。それにワクチンを組み合部電也准教授は「膠芽腫病理診断用のホルマリソで、筑波大、東京女子は正常な脳に染み渡るよ潰けのがん組織を加工し 医大が治験を行ってきうに広がっていく。腫瘍を取っただけではコント

は注射部位の発赤くらいで、ほとんど副作用がないのが特徴だ」と語っている。